

# 緑友

No. 53

1983年12月10日発行

題字 今井直一筆

## 第26回全国印刷緑友会広島大会開催 全国より34グループ 282名集う!

本年度指針

友愛の精神・自己研鑽・ニューリーダー像の探究



原爆ドームをバックに記念撮影



連帯・革新・挑戦

'83 HIROSHIMA報告号

ごあいさつ

## 全国印刷緑友会広島大会を終えて

全国印刷緑友会  
会長 竹田 光宏



全国印刷緑友会全国大会が9月23日、24日と広島において開催され、全国38グループより280余名の緑友の仲間の方々のご参集を得、大会テーマの「連帯・革新・挑戦」について語り合えたことは、まことに意義深いものがあり、大きな成果を納めたと思います。

今大会のホストを務めていただきました広島青年印刷研究会の皆様方に改めてお礼申し上げます。

大会の挨拶の中でも申し上げましたが、我々印刷業界を取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあります。社会構造の変化、エレクトロニクスの発展による技術革新、新しい情報化社会の到来、価値観の多様化…等々。将来展望は従来のように、過去から現在という単に延長線上ではとらえることができません。こうした時代であるからこそ、逆に我々青年に対する期待の大きなものがあると考えます。

いつも申し上げておりますが、緑友の集まりの中で、青年としての勇気を持ち、将来を見通す洞察力を養い、先輩から受け継いだものを発展させ、次代へ成長させる責任を果たすため、ニューリーダーとしての研鑽に務めることが大切かと思えます。そしてそれを通じて自らの活性化を図り、その力を各グ

ループそして地域社会の活性化にと波及させることが必要です。広島大会のテーマもこうした基本をもとに「連帯・革新・挑戦」であったわけです。300余名の皆様方が仲間同士、心の交流と忌憚のない意見の交換を通じて、自らの企業そして社会の活性化の実現のために何らかの糧を得られたものと思います。

特に「文化の時代を創造する」をテーマに行ないましたパネルディスカッションでは、広い視点から「文化」の問題にアタックしたのは有意義な討論会であったと思います。また前後しますが、佐々木久子氏の「酒と人生」と題した講演も子供の教育、日本の文化と風土、更に、人の心について等々、私どもがともすれば忘れかけている「心」の問題をとき、参加者に大きな感動を与えてくれました。

原爆碑前で平和の誓いを新たにした緑友の仲間の皆様方が、業界そして企業の活性化に、更に力強く歩みを進められることを希望致します。

今期の緑友の事業もセミナーを残すのみとなりました。このセミナーも、変革期を迎えている我々にあって、これからのリーダーシップのあり方を、そして生き残るための糧を得て戴ける内容のものと同信しています。

'84年2月4日、東京でお会い出来るのを楽しみにしています。

### 常任幹事会報告

#### (1)第27回全国印刷緑友会金沢大会日程変更

#### (2)未加入グループへ積極的に働きかけを!

11月19日(土)、東京の神田錦町新東京ホテルで常任幹事会が開かれた。議題は、

- ①第26回大会(広島)の反省。
- ②第17回セミナー(東京・59年2月4日)について。
- ③第27回金沢総会について。(5月12日(土)~13日(日)に変更。
- ④第27回岐阜大会について。(9月29日(土)~30日、主管…ぎふ印刷翠陽クラブ)
- ⑤第28回総会について。茨城印刷緑友会主管で科学万博見学会を兼ねて開催される事が決定。

- ⑥グループ拡大について。各地に活躍中の未加入グループの報告があり、長崎は加入予定。その他富山・千葉・滋賀・静岡(3グループ)秋田・盛岡などのグループの紹介があり、今後緑友グループに加入呼びかけを進めていくことで了解した。

幹事会の後、通産省紙業課長榎本宏明氏を呼んで指導的な立場から、印刷業男の今後のあり方などについて卓話をいただいた。

## 全国印刷緑友会広島大会報告

▼会場あふれんばかりの緑友メンバー（懇親会場）



第26回

## 全国印刷緑友会広島大会開催される

第26回全国印刷緑友会広島大会が、広島青年印刷研究会主管のもとに、去る9月23日～24日の両日に広島全日空ホテルに於て開催されました。

参加者は緑友34グループ282名。来賓に広島県知事竹下虎之助殿をはじめ、地元印刷関連団体の代表15名のご臨席を賜わり、メインテーマの「連帯・革新・挑戦」のもとに華々しく催されました。司会は、岸本均也君（広島）。

まず、国光俊彦君（広島）の力強い開会宣言のあと、全員起立して国歌斉唱、和田正君（神戸印刷若人会）の先唱で綱領唱和を行い、大会実行委員長の花田佳雄君（広島）による歓迎のことばに続き、竹田光宏会長があいさつに立ち、「大きく時代が変化しようとしている時、時代を担い、困難に挑戦するエネルギーを持つ青年に寄せられる期待は大きくなっている。われわれの選択の適否は、業界の将来を大きく左右する」と訴えた。このあと竹下虎之助県知事をはじめ、来賓の祝辞をいただき記念講演に入った。

講師は竹下知事のあいさつの中で「広島出身で郷土を代表する口から先に生れてきた女傑」と紹介のあった雑誌「酒」の編集者である佐々木久子女史。「酒と人生」と題して1時間30分全国北は北海道から南は沖縄まで、季節・風土に合ったその土地の地

酒の製法と酒の肴を自分の足で歩いて体験した中から話され全国から参集された緑友諸氏の興味をそそると共に酒を通しての歴史・文化を改めて再確認させられた。講演直後に佐々木久子女史より「久し振りに自分自身、話に乗りすぎた感があり熱が入りすぎて、咽がカラカラ。すばらしい大会であるし若い人の熱心な聞き方に感激しちゃった。ありがとう」というおほめの言葉を戴いた。

講演の感動さめやらぬうちに全日空ホテルから外に出て平和記念公園へ足を運び、原爆慰霊碑に竹田会長、花田実行委員長、広印工松田栄治理事長が代表で献花し、今日の平和の有難さを感謝すると共に被爆で亡くなられた数多くの方々の冥福を参加者全員でお祈りし、記念撮影の後原爆記念史料館を見学

▼厳粛な中での開会式



## 全国印刷緑友会広島大会報告



▲佐々木久子女史の熱演に会場沸く。演題「酒と人生」



▲懇親会での鏡開き



▲パネルディスカッション風景



▲緑友会より行なわれた原爆慰霊碑献花



▲大会旗が花田実行委員長から次年度「ぎふ印刷翠陽クラブ」安藤君へ手渡される。

し戦後38年広島現在の復興が信じられない感があった。

午後6時より全日空ホテル「万葉の間」に於いて、檀上正仁君（広島）の司会により来賓および緑友の仲間合わせて300名を越す人数で盛大に懇親会が開催され、エレクトン奏者渡辺知子嬢の華麗な演奏をバックに緑友の輪が益々広がっていくのを肌で感じとれた。講演の中で佐々木久子女史が話された広島の酒「賀茂鶴」の宣伝がよほど印象に残ったのか鏡開きをした4斗樽が空になったのには、ホテル担当者も驚きをあらわにしていた。通常4斗樽を空けるには800名位のパーティだそうです。それほどに皆さんが満足してくれたものと喜んでおります。その余韻をもって、それぞれが広島の夜の街へ繰り出していった。

翌9月24日朝、爽快な気分の中に7時30分より常任幹事・グループ長会議が朝食をとりながら開催され、つづいて9時より広島修道大学助教授日隈健

壬先生のコーディネーターにより「文化の時代を創造する」という大きなテーマをもって、パネルディスカッションが開かれた。パネラーに長野靖先生（中国新聞編集委員）、民秋史也先生（モルテンゴム工業社長）、緑友からは中村守利君（前会長）に代表として出てもらい、地域の文化から印刷までの広範囲にわたりそれぞれの歴史、また印刷については第三者的にどう考えられておられるのかのディスカッションが熱心に討議され、緑友の仲間がその中から各々が何かをつかんだものと思う。

以上で2日間の行事を盛会裡のうち滞りなく終了し、閉会式に移り次期大会開催地ぎふ印刷翠陽クラブへ大会旗の伝達が行なわれ、中川仁君（広島）の閉会宣言を最後にオプションツアーへ出発した。

この広島大会が皆様のご協力により実のある盛大なものであったことを感謝すると共に緑友の輪が今後ますます広がっていくことを念じております。

（広島青年印刷研究会 記）



全国印刷緑会グループは、  
現在38グループ、1,215名も  
の数をかぞえ、まさに全国を  
席卷しつつあります。今回、  
新加入いただいた7グループ  
の横顔をここに紹介します。  
〈順不同〉

原稿は質問内容に答えていただく形となりました。  
質問は、(1)代表者名 (2)会員数 (3)設立年月日 (4)発  
足までのいきさつとその目的 (5)これまでの活動状況  
(6)代表者のプロフィールです。

## 青森県印刷青年経営者会議

- (1)立花 建男
- (2)28名
- (3)昭和55年 9月20日
- (4)昭和55年4月の県印刷組合の総会のとき、懇親会会場において、数人の若い2世が集まり雑談の中から構想が生まれ、若いときから仲間になって将来の印刷業を背負っていこうと設立されたものです。
- (5)当会は、年4回の定例会(うち1回は総会)を開催しています。県内の印刷工業組合加盟の事業所及び関連産業の2世、もしくはそれに準ずる人で40歳ぐらい以下で構成されています。昭和57年は青森県中小企業団体中央会の指導のもとに、県工組の“活路開拓事業”の中心的役割を実行しました。例年は、例会を中心に講師を招いての勉強会や新年会などの交流親睦を行なっています。
- (6) 今年38歳、柔らかな中にも一本筋の入った「男」です。懇親会のカラオケは、いつもトップバッターでその甘い歌声は魅力的です。57年度の活路開拓事業も、彼なしでは到底不可能でした。これからも若手リーダーとして私共を導いてくれることでしょう。  
〈幹事長 大久保一穂君記〉



## 山梨印刷若人会



- (1)三枝 政
- (2)23名
- (3)昭和50年4月1日
- (4)印刷業界の発展と社会的地位向上のために、

次代を担う印刷人としての自覚を持ち、自己研鑽・相互啓発をはかり、親睦を深めていくという目的意識のもとに設立された会です。

- (5)毎月一回開催される定例会は、研修的な内容のものが多い。また特別講演会、研修旅行なども実施している。さらにファミリー・パーベキュー（写真）、ソフトボール大会などのレクリエーションを行ない、会員だけでなく家族ぐるみの親睦づくりに努めている。

- (6)有限会社 三枝印刷所 専務  
昭和25年1月22日生まれ  
第8代目幹事長、元国体出場の体操選手  
カラオケ荒らしの異名をもっています。  
〈副幹事長 長田久久君記〉

## 京都青年印刷人月曜会

- (1)特別な代表者というものはありません。毎年4～5人の代表幹事をローテーションで組んでおります。
- (2)29名
- (3)昭和47年1月15日
- (4)今から11年前に、印刷会社2世の有志によって発足しました。新しい印刷文化の修得と会員相互の研鑽を目的としています。
- (5)毎月1回、月曜日に印刷業界または関連業界より講師を招いての勉強会を開き、年1回見学会を催している。会員は40歳をもって定年とし、毎年新入会員を迎えている。この11年

間に、月曜会をとり巻く環境も著しく変化し、活動そのものの見直しや会員数の減少など、さまざまな試行錯誤をくり返しながらも会員間の親睦が深まり、10周年めには月曜会主催で講演会を開催するなどの活動をしてきております。

〈現 代表幹事長記〉



## 宮崎はまゆう会

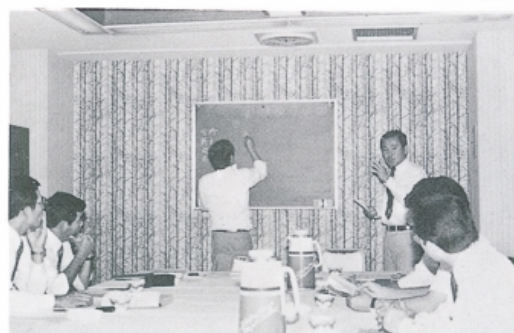
- (1)田中 正紘
- (2)19名

- (3)昭和57年10月20日
- (4)宮崎県印刷工業組合専務理事の要請で発足。

(5)毎月1回の会合、出席率約70%、会費……月3,000円。その月の会合で次月の議題を決定し今直面している問題、例えば工場従業員の高齢化・賃金・紙価格・写植外注価格など、小さな事ながらを1つ1つみんなで話し合い、足場を固めることを重点にしている。11月26日には、奥さん同伴で忘年会など、家族込みの親睦に努めている。

(6)昭和52年、36歳の時田中印刷有限会社を開業。妻、小5の子供と母の4人暮らし。趣味は、ゴルフ・野球・麻雀・碁・将棋となんでもござれ、といたいだが、人より優れたものなし。つまり、下手の横好き。

〈本人記〉



## 青 鵬 会

(1)竹本 紘

(2)23名

(3)昭和57年7月17日

(4)緑友グループである大阪写真製版二世会が、実質的に活動を停止していたものを現社長らが中心となって呼びかけ、新会員を獲得し、旧二世会を引き継ぐ形で会名を変更した。会員相互の啓発と修練、ならびに親睦を目的としている。

(5)3ヶ月に1回、例会を行なう。設立以来、懇親会・講演会・旅行会などを行なっている。会員構成は写真製版とその関連業の有志達。

(6)昭和17年3月大阪生まれ。甲南大学卒業後、美術印刷(株)入社。5年間、印刷知識を身につけ、昭和45年、(株)美術プロセス入社。現在、専務取締役。奥さんと2児の円満家族。ゴルフ・マージャンなどは一切やらない優等生会長です。

〈事務局長 岩本幸一郎君記〉

## 福井県印刷青年部

(1)西川 文夫君

(2)19名

(3)昭和48年7月

(5)毎月一回例会を開き、年2回経営者講習会・営業マン講習会などを行なっている。また毎年9月頃には、印刷人ソフトボール大会(写真)を印刷関連業者を対象に開催。25~30チームが2日間に渡って汗をかきます。年に3~4回会報を発行しています。その他、親睦の意味も兼ねて、家族クリスマスパーティーも実施しています。

(6)昭和19年5月28日生まれ

美人と評判の奥様と、2人の男の子に囲まれて家庭円満です。一步外に出て、ネオン街でマイクを持つともう本格派。現メンバーでは右に出るものなしの実力です。



## 鹿児島県緑友会

- (1)会長 中村 博大 (2)会員数23名  
昭和19年4月5日生  
中央印刷(株)専務取締役・県印刷工業組合監事
- (3)発足のいきさつ
- (4)以前存在した県青年部の復活を工業組合の協力のもとで、5名の発起人が青年部を作ることとを決定し、57年11月第一回総会を開催。鹿児島県緑友会が正式誕生した。
- (5)現在の活動状況  
58年9月2・3・4日、丸屋デパートで'83生活のなかの印刷展(わたしの鹿児島と印刷をテーマにイラスト・写真展)を開催。

- ①県庁・市役所等の諸手続に要する書類を人の一生に俵して展示。
- ②私文書の印刷に関する資料を公開する。
- ③おもしろ印刷展として、めづらしい印刷、風変りな印刷など、又色分解の分色、組版、版下の作成方法など。
- ④マスター(紙製品)による印刷実演。
- ⑤印刷に関するテープ・ビデオの公開。
- 特別企画(アンケート調査)
- 一般用 印刷に関する興味、イメージ、知識等。
- 企業用 県内大手印刷発注のある会社の担当者を一リストアップして、アンケート調査。

## 第17回全国緑友会セミナー開催のご案内

と き/昭和59年2月4日(土)  
と ころ/日本工業倶楽部

日本の景気は回復の兆しがみえてきたとはいえ、いまだ経済、社会環境は厳しく予断を許さない状況にあります。

このような時にあって、今経営者に求められているのは新しい時代に対応できるだけの知識・能力を身につけ、実行力を持つことでありましょう。

第17回セミナーは、東京の若竹会の皆さんを中心に在京7グループの方々にご協力をいただき、着々と準備が進められています。今回の内容は、この「変革期」において素晴らしい対応をされ、日々経営の実

践をされている藤井康雄氏と、永年に亘り経営者について研究を続けておられる清水龍瑩氏に講演をしていただくことになりました。演題は、藤井康雄氏「21世紀型経営・未来へのノウハウ」。清水龍瑩氏は「企業成長と経営者能力」です。お2人共、拝聴に値する経営理念、哲学をお持ちで、この講演からこれからの経営者像を浮き彫りにしていただければと企画致しました。

各グループの皆さんの参加を心よりお待ち申しあげます。

### 講師略歴

#### 藤井 康男氏

千葉大学薬学部卒業、理学博士。(株)龍角散、(株)日本特殊分析研究所、および(株)ヤトロン(株)の社長を兼任。昭和5年生まれ。東京都出身。

#### 清水 龍瑩氏

慶応義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了、現在同大学教授。  
昭和5年生まれ。東京都出身。

## ◆編集後記

緑友だよりNo.53がやっと出来ました。原稿を各グループにお願いしたため、集りが悪く予定の1月遅れとなったこととお詫びします。

広島青年印刷研究会の皆さん、本当におつかれさまでした。参加した全ての会員が満足をして帰ったと思います。

各地で、緑友の新しい仲間になりそうなグループが活躍しているようです。せめて早く1県1グルー

プの誕生を見たいものです。

2月のセミナーでお目にかかる日を楽しみに。

#### 全国印刷緑友会機関誌「緑友」第53号

〒466 名古屋市昭和区白金1-11-10

竹田印刷(株)内 TEL 052-871-6351

発行人 竹田光宏(名古屋而立会)

編集人 古賀健一(福岡印刷若葉会)